

講義要項

I 基礎・教養科目

現代社会論

1・2年次選択（前期）2単位

講師 石井 尚武

講義目標

約40年、新聞の報道現場から時代の諸相を観察してきた体験をもとに、講義では最新のニュース報道を通じて現代社会の問題点を浮き彫りにします。

「マスコミ」という言葉を聞いて、新聞を連想する人、週刊誌を連想する人、テレビまたはラジオを連想する人、それらをひっくるめて連想する人、とさまざまでしょう。その答え方によって、その人がどのメディアの影響下にあるか傾向が分かります。

社会現象は多種多彩です。現象の背後には本質があります。何が社会をつき動かしているか。そのダイナミズムを探り、本質を知ることには大人としての素養です。そのための手がかりの一つが「活字」ですが、残念なことに、若い層の「活字離れ」が最近ますます進んだと言われます。

講義は主に新聞の報道と評論を素材にします。そのときどきのニュースから今日の日本がおかれている立場を解説します。「活字離れ」の最も効果的な処方とは自ら文章をつづること、に尽きます。時間的余裕があれば文章表現講座も設けたいと考えます。

講義内容

日本はいまどんな問題に直面しているのでしょうか。ざっと拾いあげただけでも「社会の格差」「行財政改革」「イラク支援」「改憲論議」「安保と米軍基地再編」「北朝鮮を含めたアジア諸国外交」「少子・高齢化」「温暖化と環境保全」「金融犯罪」「モラルハザード」などを挙げることができます。それらはたがいに微妙に絡み合っているので、一つを解きほぐそうとすると他のいくつかが伴ってきます。

しかも、たとえば「行財政改革」のなかには「地方分権（地方主権）」があり「規制緩和」があり、「高級官僚の天下り」などいくつもの問題があります。おびただしい情報量に私たちは一見、押しつぶされそうにみえますが、整理してみると、本質が指すものは多くはありません。たとえば日本が明治以降、右肩上がりに発展肥大化してきた反動あるいはツケとしてみると、景気も行革も環境もその枠に収まってしまいます。

講義では、情報と知識との関係、マスメディアの変遷とありようについても取り上げたいと考えます。

評価方法

小論文（出席点も加味）。授業の進行しだいで論述式試験に変えることもあります。

教科書

とくに使用しない。講義のつど、レジュメを用意、配布する予定。

参考書

講義のつど、必要に応じて紹介

地球環境学概論

1・2年次選択（後期）2単位

講師 片岡 八束

講義目標

本講義では、現代社会の直面する環境問題のうち、特に地球環境に関する問題群について概観する。先進国及び発展途上国における環境問題の現状と原因を紹介するとともに、これらの問題の解決に向けた取組とそれを実施する上での問題点について考える。

現在、地球上で観察される環境問題の多くは、18世紀末の産業革命以降に確立された大量生産・消費・廃棄に基づく経済発展パターンの結果、生じたものである。人類の社会経済活動による環境への負荷が増大するにつれ、局所的な自然破壊や公害問題が顕在化し、ついにはオゾン層の破壊や地球温暖化といった地球規模の問題へと拡大してきている。多くの発展途上諸国が経済的な発展を目指す中、これらの国々と経済先進諸国が協力して環境への負荷の出来るだけ小さい発展パターンを模索していくことが求められている。受講する学生諸君には、本講義を通じて身近な環境問題から地球規模の環境問題に至る多様な環境問題についての理解を深めると同時に、今後、環境に配慮した持続可能な開発の実現に向けて地球市民のひとりひとりが担うべき役割について考える力を養うことを期待する。

講義内容

地球環境問題についての導入ののち、地球温暖化、森林破壊、有害廃棄物の越境移動、途上国の環境問題など個別の地球環境問題を取り扱う。個別の問題を取り上げる際には、問題の概要とその対策だけではなく、貧困問題などその他の社会経済的な問題との関連にも言及する。

評価方法

出席、授業への参加（課題提出を含む）、期末レポートによる。

教科書

授業の際に配布する資料を使用

参考書

参考書については、講義の際に紹介する。

ボランティア論

1・2年次選択（前期）2単位

講師 岸川 洋治

講義目標

現代社会におけるボランティア活動の意義を考え、実践への手がかりを提供することを目標とします。

ボランティア活動は福祉、教育、環境、まちづくり、多文化共生、国際協力など現代社会が抱えている課題に市民が主体となって取り組む活動として関心が高まっています。ボランティア活動の担い手も、世代を超えて広範囲になっています。ボランティア活動は本来自発的な活動ですが、その活動がより意義あるものとなり、その成果が十分社会に還元されるためには、ボランティア活動の特質を理解することが不可欠です。

受講生自らがボランティア活動に関心を持ち、ボランティア活動実践の第一歩を踏み出すことを目標とします。

講義内容

具体的な活動事例の考察を通して、ボランティア活動の歴史的背景、現状、課題、特質、意義などへの理解を深めます。

1. ボランティア活動の歴史的背景
2. ボランティアの基本的特質
3. ボランティアの現状
 - (1) ハンディを持つ人びとに
 - (2) 高齢者を支える

- (3) こどもたちの未来を考える
- (4) コミュニティ形成に向けて
4. ボランティアの課題
5. 現代社会におけるボランティアの意義

評価方法

期末レポート

教科書

なし

参考書

岩波書店編集部「ボランティアへの招待」岩波書店

哲学

1・2年次選択（前期）2単位

講 師 越智 洋

講義目標

哲学とは、未知の情報・知識の獲得を目標とするというより、すでに在る自分と自分をとりかこむものの、その在り方の根本をみつめ、とらえなおそうとする思考実践です。一見途方もないようなそうした試みを、哲学は、実際に言葉を使って、ある場合には思い切った合理的発想で、またある場合には繊細な日常生活的感覚を活かしながら、実行していきます。授業では、哲学者たちをとらえて離さない幾つかの問題について、それが問題であるゆえん、また現代にいたる解明の要点を紹介します。それにならって、履修者のみなさんも、各自毎回小さなトライを、行うことになります。

講義内容

1. 哲学のアプローチの種々の仕方とその特質（絵本をヒントに）
2. 生・死の問題（エピクロスの言葉その他）
3. 自分の声や鏡像
4. 色・音の知覚体験と世界の実在性
5. 変化の本質と同一性
6. 時間は流れるか
7. 過去・記憶・歴史
8. 意味とはどういう意味だろう
9. 意志の内実の見定めがたさ（ウィトゲンシュタインの言葉その他）
10. よい・わるいについて

履修者のみなさんからの声にしたがって、若干順序や内容上の変更があるかもしれません。

評価方法

出席・応答文（感想文）・レポート等、総合的にみて評点させていただきます。

教科書

適宜プリント配布します。

参考書

教室で紹介します。

日本文学

1・2年次選択（後期）2単位

准教授 坂内 泰子

講義目標

5000円札でおなじみの明治の女流作家樋口一葉は、極貧の中で小説を書き続けました。小説に使う言葉が文語から口語へと移る時代でしたが、一葉は文語を駆使して、社会の片隅に生きる人たちの姿を描き出しました。文語だから古文みたい、現代語訳がなきゃわからないよ、と思う人もいるでしょうが、そんな理由で一葉の作品を知らないというのはとても残念なことです。なぜなら、読めば思いがけない発見や感動に出会えることが確約できるからです。英語ではちょっと味わえないような日本語らしい魅力にもあふれています。一葉の作品を読んで、そこに浮上するさまざまな問題について考えることが目標です。

講義内容

「たけくらべ」を味読します。遊郭のある街で育つ子どもたちの暮らしやほのかな初恋を描いた名作です。短編ですから、読み終えるのには時間がかかりません。しかし、この作品の魅力はストーリーと同時に、無駄のない流れるような文章の美しさです。ですから、まず声に出して読めるように頑張りましょう。声に出して読み、耳に聞こえたまま、素直に一葉の世界に入っていきます。その後、丁寧に読み解いていきます。作品の緻密さにきっと驚くことと思います。

評価方法

出席、授業中の態度、レポート（状況により試験の可能性あり。）

教科書

岩波文庫「にぎりえ・たけくらべ」（樋口一葉）

参考書

教室で指示

日本語

1・2年次選択（後期）2単位

准教授 坂内 泰子

講義目標

日本にすむ私達のほとんどが最も熟達し、最も慣れ親しんでいる日本語という言葉を〈なんとなく〉とか〈だってそうなんだもの〉という感覚的なものから、〈どうしてそういうふうにいるのか〉と考えることのできる言語にしたいと思います。出来上がったものを暗記するのではなく、日常の中から日本語の特質を考え、現代の日本語を文法的に考える力の養成が目的です。

講義内容

自然な日本語の使い手としての皆さんの積極的な発言・資料提供をもとにしながら、現代日本語についての文法的な考え方を学ぶ授業です。品詞とはどういうものかから入り、ついで、人称、ボイスやテンスといった、高校までの、いわゆる学校文法にはなかった概念にすすむことになりますが、それを形作る素材はすべて自分達の口にする日本語ですので、安心してください。いくつかの専門用語や考え方は学ばなければいけません。古文の文法のように活用表を暗記するような必要はありません。

評価方法

出席、授業中の態度、レポート（状況により試験の可能性あり）

教科書

森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』（ひつじ書房 1800円）

参考書

教室で紹介

日本語表現法

1・2年次選択（後期）1単位

准教授 坂内 泰子

講義目標

自分が考えたり、感じたりしていることを、自分以外の人に伝えるための言語化の実践を主に取り扱います。相手にわかりやすく、かつ自分らしい魅力的な文とはどういう文かを考えていきましょう。同時に、書くときの基本的なルールを身につけることも目的とします。人を驚かせるような名文は、ある程度生まれながらのセンスかもしれませんが、普通に安心して読める文章なら、意識して学習することで、誰にでも書けるようになります。

講義内容

1. 表記の作法
2. 自分にしか書けない文
3. わかりやすい文の特質
4. 定義・説明をする文
5. 意見を述べる文
6. 文章の構成

上記のような順序を予定しています。学期中、8本前後の提出物があると考えてください（ただしそれぞれ400字程度）。みなさんの作品が教材になることもありますので、覚悟してください。書く内容はみなさんの予想以上にさまざまです。苦しまないで書けるような題材を工夫します。

評価方法

授業課題に関係した提出物、レポート

教科書

プリント

参考書

教室で紹介

日本語教授法

1・2年次選択（後期）2単位

准教授 坂内 泰子

講義目標

外国の人に日本語を教えてみたい、と思う人のために、日本語を教えるとはどういうことなのかを概説します。日本語を母語としているだけでは教える能力があることにはなりません。単なる技術に留まらず、日本語を知らない人と日本語を通してどんな関係を築いていけばよいかを考え、日本語を教えることに関係する社会的な問題にも目を向けて欲しいと思います。

講義内容

日本語教育や日本語学習者の現状を学んだあと、日本語の音声や語彙、文字などの特質をはじめ、日本語全般についての知識を深めます。いろいろな日本語教科書の構成やそれを使った授業の進め方についても触れ、日本語を教える型である「文型」を学びま

す。日本語の文法などに関する予備知識を必要とするので、「日本語」既習、あるいは同時受講が望ましいです。

評価方法

出席、授業中の態度、レポート（状況により試験の可能性あり。）

教科書

プリント

参考書

教室で紹介

歴史学

1・2年次選択（前期・後期）2単位

博士（史学）

教授 君塚 直隆

講義目標

「人間の様々な営み」を学ぶ学問である歴史学には、政治史・経済史・社会史・文化史など、様々な分野があります。また、地域にしても、ヨーロッパからアジア・アフリカに至るまで多岐にわたっております。しかし、現代日本の我々に絶大な影響を及ぼしている文化が、近代以降の欧米文化であることに異論はないでしょう。その近代欧米文化の基盤となっている感性に焦点を当てながら、「歴史とは何なのか？」をみなさんとともに考えていきたいと思えます。

講義内容

今年度は、近現代ヨーロッパ（アメリカも含める）の音楽史を題材に、彼らの思想・感性の背景となっている、宗教・風俗なども考慮に入れながら、欧米文化の実像に迫っていきたいと考えております。現在の予定は以下のとおりです。

1. 中世音楽の誕生（グレゴリオ聖歌など）
2. ルネサンスの時代（フランドル楽派の興隆）
3. バロック音楽の登場（ヴィヴァルディ・ヘンデルなど）
4. バッハと宗教音楽（プロテスタントの音楽）
5. 古典派とヨーロッパの激動（ハイドン・モーツァルト）
6. ベートーヴェンの時代（ソナタ形式の定着）
7. ロマン派の時代（ショパン・シューマンなど）
8. 近代オペラの時代（ヴァーグナー・ヴェルディなど）
9. 世紀末のひろがり（ブルックナー・マーラーなど）
10. 20世紀の音楽（ジャズとロックの誕生）

評価方法

筆記試験と授業態度で評価をいたします。なお、音楽鑑賞も重要な位置を占めますので、講義中の遅刻・早退・私語・チューイング・携帯電話は固く禁じます。約束を破った場合には、即退室、履修の取り消しを命じますので注意してください。

教科書・参考書

特定の教科書は用いません。参考書につきましては、適宜、指示します。

教育学

1・2年次選択（前期）2単位

講師 高橋 勝

講義目標

現代社会における「子ども・学校・社会」の問題を多角的に考察する。その際に、前近代から続く無意図的な人間形成、社会化の機能と近代社会に固有の意図的「教育」(education)の機能を区分けして説明する。家庭や地域社会の「人間形成」機能が縮小するに従って、学校の「教育」機能が拡大し、肥大化していく構造を具体的に説明する。現代社会における「子ども・学校・社会」の人間形成の諸課題を構造的に理解し、その解決策をイメージ豊かに考えられる力を養成する。講義形式に加えて、随時VTR、画像などを使用しながら、できるだけ具体的に授業をすすめていきたい。

講義内容

1. 人間形成と教育
2. 「子どもの発見」の意味
3. 「子ども／大人」分節化と乖離
4. 「一人前」から「発達」へ
5. 学校空間と子ども
6. 旅と遍歴の教育学
7. 子どもの遊び空間
8. 経験の変容
9. 経験のメタモルフォーゼ
10. 子どもとメディア空間

評価方法

出席状況、レポート、学期末試験の結果を総合して判断します。

教科書

授業中に指示します。

参考書

- 高橋 勝『情報・消費社会と子ども』明治図書
高橋 勝『文化変容のなかの子ども』東信堂

法学

1・2年次選択（後期）2単位

講師 伊東 明子

講義目標

私達は意識するとなしにかかわらず、毎日「法」と関わって生きています。人として社会の一員として生活して行くためのルールの一つが「法」であるからです。授業では、憲法・民法・刑法を素材として、「法」とは何かをやさしく説明します。

単に事実や法律を解説するのではなく、「自分ならどう考えるか」という問題意識を法的に組み立てて行くことを目標とします。受講者の皆さんがそれぞれに積極的な姿勢で授業に参加することを希望します。

講義内容

現実にテレビや新聞で報道される、身の回りで起こっている出来事からさまざまな問題を取り上げて解説して行きます。ビデオなどの教材も活用します。受講者の興味や関心に配慮して、事例を考えるつもりです。進行はおおよそ次の通りです。

1. 法とはなにか
2. 憲法と法律
3. 家族と法
4. 消費者と法

5. 労働と法
6. 犯罪と法
7. 裁判と法

評価方法

授業中にコメントの提出、小テストやビデオ視聴時のワークシート記入をそれぞれ数回実施します。学期末試験は筆記試験を予定しています。これらの総合評価により成績を決定します。

教科書

- 青柳幸一・笠原毅彦・安部哲夫・磯本典章 著『新版・現代法学入門(第4版)』（尚学社）
『デイリー六法・平成19年版』（三省堂）

参考書

必要に応じて適宜、紹介します。

日本国憲法

1・2年次選択（後期）2単位

講師 伊東 明子

講義目標

「教育を受ける権利」を享受してきた皆さんにも、社会に出て「勤労の義務」を果たし、「参政権」を行使する日がやってきます。私たちの生活のルールである「法」の中で、総元締めである憲法は、私たち個人の人権を保障し、国の仕組みを規定しています。憲法は実は身近なところにつながっているのです。

基本的人権を中心とした憲法の様々な個別の論点を理解し、自分なりの意見を組み立てる作業を通じて、日本国憲法の基礎的な知識や考え方を身につけることを目標とします。

講義内容

憲法が現実の生活に関わっている具体的な事件（判例）を紹介しながら、憲法がどのように解釈されているのかを解説します。資料プリントやビデオなどの教材も活用します。受講者の興味や関心に配慮して、事例を考えるつもりです。進行はおおよそ次の通りです。

1. 日本国憲法の誕生と基本原理
2. 人権は誰のものか
3. 生命・自由・幸福追求権
4. 法の下での平等
5. 精神的自由権
6. 経済的自由権
7. 社会権
8. 憲法と平和主義

評価方法

授業中にコメントの提出、小テストやビデオ視聴時のワークシート記入をそれぞれ数回実施します。学期末試験は筆記試験を予定しています。これらの総合評価により成績を決定します。

教科書

- 青柳幸一・笠原毅彦・安部哲夫・磯本典章 著『新版・現代法学入門(第4版)』（尚学社）
『デイリー六法・平成19年版』（三省堂）

参考書

必要に応じて適宜、紹介します。

文化人類学

1・2年次選択（前期・後期）2単位

講義目標

人類学は、猿から人間への進化を研究する学問である。その人類学は、自然人類学、文化人類学、考古学に大別されるが、この文化人類学では、原始社会に注目し、人間存在のルーツについて追及する。とくに本講では、「結婚と家族」および「仲間と社会」の問題を中心に講義する。

講義内容

- 第 1～3回 「枠組み」の問題
- 第 4～8回 「結婚と家族」の問題
- 第 9～14回 「仲間と社会」の問題
- 第 15回 まとめ

教科書

木山英明 著『人間の来た道—人類学の話』好文出版、2002年（コピー配布）

参考書

拙著『人間の来た道』（好文出版 1994年）

Doctor of Philosophy

教授 木山 英明

- ②テキスト、第1章 駆け引きと謝罪
- ③第2章 義理と人情
- ④第3章 言挙げということ
- ⑤第4章 肉と食人習慣
- ⑥第5章 大陸の肉食と島国の生類
- ⑦第5章 大陸の肉食と島国の生類
- ⑧第7章 光と陰
- ⑨第7章 光と陰
- ⑩第8章 結語
- ⑪第6章 幼児体験と国民性
- ⑫第6章 幼児体験と国民性
- ⑬第6章 幼児体験と国民性
- ⑭総まとめ。おわり。
- ⑮（予備日）

評価方法

出席、質疑回数内容、レポートによって評価する。

教科書

木山英明著『ものいう国ともものいわぬ国—わが国民性の比較文化論』2007年（コピー配布）

参考書

- Ruth Benedict 著、長谷川松治訳『菊と刀』社会思想社、1991年。
- Lafcadio Hearn 著、池田雅之訳『日本の面影』角川書店、2000年。
- 土居健郎 著『甘えの構造』 弘文堂、1996年。
- 木山英明 著『文化人類学がわかる事典』日本実業出版社、1996年。
- 木山英明 著『人間の来た道—人類学の話』好文出版 2002年。
- Website「通文化テストの広場」

比較文化論—日本人の国民性とは何か—2007年度

1・2年次選択（前期・後期）2単位

Doctor of Philosophy

教授 木山 英明

講義目標

文化は、民族の生活習慣であり国民性といってもいい。わが国にも、幾千年続いてきた文化があり国民性がある。日本人、わが国の国民性はどのようなものだろうか、他の多くの異なる文化と比較することによって考察する。

自分が何者かと問うとき、自分だけで自問自答しても何もわからない。井戸のなかでただ一匹で住む魚は、自分の姿がわからないだろう。その魚が、たまたま大海に出て多くの魚と接したとき、彼は自分の大体の姿を知るであろう。

文化・国民性についても同じだ。日本人が日本人だけを見てその姿を知ることはできない。日本人と日本人ではない多くの国々の人々を同時に見て、比較するのであればその姿は見えてこない。具体的には、拙著『ものいう国ともものいわぬ国—わが国民性の比較文化論』をテキストにして、諸外国の文化・国民性と比較することによって、日本人の特性について考える。

つぎに、人間共通の文化の性質について考える。文化はその国固有の生活習慣だが、ひとつの習俗は他の習俗と因果関係で結ばれていることもあり、そうでないこともある。たとえば子供を厳しく育てる国の大人は、体格も大きく大胆で病気にも強いという傾向、あるいはスキンシップを剥奪して子供を育てると乱暴ものになりがちだという傾向などが、通文化研究で明らかにされている。

そのような文化の要素（個々の習俗）間の因果関係について、上記拙著「第六章 幼児体験と国民性」等により考察する。

講義内容

①序論：コースの目標、自己紹介。

文化と自然、猿の原初的的文化、文化と文明、文化は民族の伝統。

心理学

1・2年次選択（前期・後期）2単位

教授 櫻井 信也

講義目標

心理学は、人間の心を研究する科学である。心理学者は、多くの手段を用い、いろいろの側面から人間の心を研究している。その理論的アプローチも種々であるが、ここでは、無意識の作用を重視する臨床心理学的な視点を大切にして講義したいと考えている。臨床心理学は、心の問題を持つ人にどのように治療的にかかわるか、という実際のな要請から生まれた学問の体系である。心の一般法則ではなく、個別性を重視するものである。生き生きとした心の諸相を伝えられたらと思う。

講義内容

無意識の現象、夢の意味と機能、防衛機制（適応機制）、心の病理を予定している。また、「社会的引きこもり」など今日的な問題も取り上げてみたい。

評価方法

出席、積極的に発言し、考えを述べる態度、そして筆記試験。

教科書

特に指定しない。

参考書

河合隼雄 著『ユング心理学入門』（培風館）

自然人類学

1・2年次選択（前期・後期）2単位

Doctor of Philosophy
教授 木山 英明

講義目標

人間は本当にサルの子孫だろうか。もしそうだとすると、それはどのような経路をたどって、今日の人間になったのだろうか。この疑問が自然人類学の大問題です。授業の半分は、大体この問題について講義します。

人間を含めて動物は、みな習性をもっています。習性に従った行動をします。そうした習性は、遺伝と後天的な学習とが相まって形成されます。例えば、右利きとか左利きといった我々の利き手も、ある程度遺伝的な条件がありますが、それだけでは不十分です。生まれてから後我々がその手を使ってどのくらい練習したかという結果によって、そのような利き手として完成しています。人間の習性とは何か。それは、どのように動物と同じで、どの点が人間固有な行動様式といえるか。このような「人間行動学」（人間についての動物行動学）が、後半のメイン・テーマになります。

講義内容

（” pp. xxx-xxx” は、その頁を予習しておくことの意味）

第1回 人類学の誕生、ヒトは神が造ったか自然に進化したか。

『人』 pp. i-viii, 8-15.

第2回 地球の誕生、生命の誕生、地質年表、生物分類学。

『人』 pp. 92- 95, 105-107.

第3回 サルの誕生、サルの特徴、霊長目の進化と分類。

『人』 pp. 95- 97, 107-109.

第4回 類人猿ドリヨウピテクスからヒト（猿人）へ。

『人』 pp. 63- 92, 108-113.

第5回 アウストラロピテクス（猿人）の分化と進化。

『人』 pp. 114-117.

第6回 ホモ・エレクトス（原人）の登場。

『人』 pp. 53- 62, 116-118

第7回 原人の生活（チーム狩猟、戦争、文化）。

『人』 pp. 119-125, 135-140.

第8回 ホモ・サピエンスの登場と人種分化

第9回 生物適応と人種分化

第10回 モンゴロイドの進化（クーン＝バードセル仮説）と日本人の起源。『日』

第11回 日本人の起源。

『日』

第12回 生物の進化と自然淘汰

『人』 pp. 437-445

第13回 愛他行動の進化

『人』 pp. 126-135

第14回 性と同性愛

『本』 pp. 179-218

第15回 総まとめ

評価方法

最終試験を中心に、質問回数内容、出席率等を加味して評価する。

教科書

木山英明著『人間の来た道』（好文出 1994年） 略号『人』

参考書

ウィルソン著、岸由二訳『人間の本性について』（思索社 1983年） 略号『本』

埴原和郎著『日本人の誕生』（吉川弘文館 1996年） 略号『日』

自然科学概論

1・2年次選択（前期）2単位

講師 伊藤 しゅう

講義目標

現代の科学と科学技術について理解を深め、メディアが報道する科学関連の話題を正確に理解し、批判的に考察するための知識と科学的思考力を身につける。

講義内容

1. 科学・科学技術とは何か
科学の定義、現代科学の特質、科学・科学技術・社会の関わり
2. 地球環境問題
地球温暖化、その他の地球環境問題、環境倫理
3. 生物学と社会
生物学と医学の発展、生物工学、生命倫理
4. 情報工学と社会
コンピュータ、ネットワーク、情報社会とデジタル・ディバイド

評価方法

筆記試験と出席状況で総合的に評価する。

教科書

特定の教科書は使用しない。講義時に資料を配布する。

参考書

講義時に紹介する。

統計学

1・2年次選択（前期）2単位

講師 高橋 和子

講義目標

情報化社会といわれる現在、様々な情報をどう読みとるかは大変重要です。統計学とは統（す）べてを計（はか）ると書きますが、観察や調査によって得られたデータを分析し、その特徴や傾向などの特性をつかみ、当面する問題に合理的な判断を下すための客観的な情報を与えてくれる一つの学問です。

大きく分けて、手持ちのデータだけから読みとる記述統計と、データの背後にある対象について統計分析を行う推測統計があります。ここではその基本的な考え方を学び、身近なデータを用いて統計分析を行います。またパソコンを利用して統計量の計算やいろいろな統計グラフを描きます。

本講義は、統計学の理論的な面よりも、データを分析するために必要な統計学的な考え方、意味等に重点を置き、統計学的な物の見方、考え方を身につけることを目標とします。なお、授業ではエクセルを使いますので、エクセル初級程度はマスターしていることが履修の条件となります。

講義内容

1. 統計学の歴史
2. データを記述する
基本統計量
統計グラフ
3. データを推測する
4. データを仮説検定する
母平均の検定

- ノンパラメトリック検定
- 5. 2組のデータ
相関係数
- 6. 生活の中のいろいろな統計量
国民平均貯蓄高
天気予報 など
- 7. インターネットと統計情報

評価方法

レポートとミニテスト、平常点。

教科書

室淳子、石村貞夫 著『Excel でやさしく学ぶ統計解析』（東京図書 2,000円）

参考書

必要に応じ指示します。

体育A（スポーツ実習Ⅰ）

教授 片岡 義則

1・2年次選択（通年）1単位

実習目標

私たちにあってスポーツをすることの価値には、主なものとして2つを上げることが出来る。

1つは、健康と体力の維持向上に貢献することである。つまり運動が不足すると、体力の低下、病気に対する抵抗力の低下、循環器系などの病気の促進、精神神経系の障害、肥満の促進、老化の促進など心身に悪い影響がある。生活することがそのまま運動になっていた時代と違い、今日では生活の中に意識的に運動を取り入れない限り運動不足になってしまう。したがって、生涯健康的な生活をするためには、日頃からバランスよく運動に接することが大切である。

2つとしては、多種多様な人たちと交流する際のコミュニケーション手段としても役に立つことが上げられる。つまり世代や地域などの違いを越えた交流を可能にする。またスポーツは「世界共通言語」でもあり、このユニバーサルな交流手段を身に付けることは、私たちの生活を豊かなものにしてくれる。

そこで、本実習においては、スポーツを通して健康と体力の維持向上を図り、さらにストレスの解消、仲間との連帯感にも役立つものとした。種目としては、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球などの体育館種目を取り上げ、それぞれの種目の基礎技術を習得するとともに、レベルに応じたゲームを楽しめるように段階的に授業をおこなってゆく。

また、健康と体力そしてスポーツに関連する豆知識的な内容をプリントとして提供してゆく。

実習内容

1. バレーボール
 - ・授業での基礎技術（サーブ、パス、トス、スパイク、ブロック）
 - ・バスゲーム→ 攻撃できるゲーム（乱打形式）→ ルールを工夫したゲーム
2. バスケットボール
 - ・授業での基礎技術（パス・キャッチ、シュート、ドリブル）
 - ・スリー・オン・スリー→ 半面コートでのゲーム→ 全面コートでのゲーム
3. バドミントン
 - ・授業での基礎技術（サービス、ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ドライブ、

ヘアピン、ロブ）

- ・コート制限ゲーム→ストローク制限ゲーム→シングルスゲーム→ダブルスゲーム
- 4. 卓球
 - ・授業での基礎技術（フォアハンドドライブ、バックショート、カット、サーブ）
 - ・ラリー連続回数・競争→コート制限ゲーム→球種制限ゲーム→シングルスゲーム→ダブルスゲーム

評価方法

出席状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果などを加味して総合評価する。

教科書・参考書

特に指定しない。

体育B（スポーツ実習Ⅱ）

教授 片岡 義則

1・2年次選択（通年）1単位

実習目標

人生80年という時代になり、「生涯健康で生活できる」ことの意味が、ますます重要になってきました。そして、現代において疾病傾向が感染症から生活習慣病へと変化してきました。これは、ある意味では「自分の健康は自分でつくる」ことが可能になってきたとも言えます。また、生活水準が向上し、余暇時間も増大して、多種・多様な運動の楽しさを求める可能性も多くなってきました。

そこで、適度な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じてできる屋外でのポピュラーなスポーツとしては、テニスとゴルフが上げられます。

まず、テニスは比較的用具も手軽で、少人数でも出来ることから運動する習慣を身につけやすく、その楽しさを生涯にわたって味わうことが期待できます。そこで、本実習においては、生涯スポーツとして最適なテニスを、初歩からダブルスゲームが出来るまで段階的に授業を行ってゆきます。

次にゴルフですが、これは施設と用具の関係でゴルフそのものは実施出来ず、本実習においては、ターゲットバードゴルフを取り上げます。この種目は、ゴルフボールにバドミンントンの羽根のようなものを取り付けた形状の専用ボールを、ゴルフクラブ（ショートアイアンのみ使用）で打ち、傘を逆さにしたようなホールへ入れるミニゴルフの一種です。したがって、本実習においてはゴルフ入門的内容の授業を行います。

また、健康と体力そしてスポーツに関連する豆知識的な内容をプリントとして提供してゆきます。

実習内容

1. テニス
 - ①ボールつき
ラリーラケットでボールを扱うことに慣れる。イースタングリップに慣れる。
 - ②サービスコートで行う
ミニゲームグラウンドストロークの初歩的動作の習得。初歩的ルール・審判法の理解
 - ③半面コートで行うシングルスゲーム
グラウンドストロークの基本動作の習得。サービスの基本的打法の習得。ネットプレーの習得。
 - ④ダブルスゲーム
前・後衛それぞれの基本ポジションと審判法を理解し実践する。

2. ターゲットバードゴルフ

- ①スイングの基礎づくり……グリップ、スタンス、予備動作、スイング
- ②ショート・コース競技

評価方法

出席状況、授業態度を中心として、技術の向上、ゲームの結果などを加味して総合評価する。

教科書・参考書

特に指定しない。

健康科学

1・2年次選択（前期・後期）2単位

講義目標

日本の健康水準は近年、著しく向上しており、「生まれた子どもの多くが長生きできる社会（世界有数の長寿国）」となっている。これは、生活水準の向上や医学・医療の進歩により、感染症などの急性期疾患を減らすことができたためである。

しかしその一方で、がん、心臓病、脳卒中が死因順位の上位を独占するようになってきている。これらの病気は、その発生や進行に生活習慣が深く関係しているので生活習慣病とよばれている。つまり、こんにち、私たちの健康と長寿を阻害する最大の病気は生活習慣病である。この病気は、個人の生活習慣の積み重ねが深く関係しておこる。このことから、「健康は与えられるもの」ではなく、「自らの手で獲得するもの」であると言われ、若い頃からの生活習慣が大切なものとなってきている。

そこで、本講義においては、「私たちの日常生活」を「健康」という視点から分析し、考察することにより、健康的な生活をおくるための知識を習得し、健康的な生活習慣の実践に役立つことを目標としている。

そして、DVD教材など視聴覚教材により、現代の健康問題に関して深く考えてもらいます。

講義内容

1. 生活習慣病とその予防……がん、循環器病
2. 栄養・食生活……肥満、ダイエット、食事の内容、食事の時間と回数、食事と食品
3. 身体活動・運動……適度な運動、有酸素運動（エアロビクス）、運動と肥満予防
4. たばこ……受動喫煙、女性と喫煙、禁煙法
5. アルコール……酩酊の度合い、一気飲み、酒に弱い人、依存症
6. 休養・こころの健康づくり……睡眠、積極的休養法、体内時計、心身相関
7. 医薬品と自然治癒力……自己治癒力、副作用
8. 性と生……性感染症（STD）、生殖医療

評価方法

授業中に実施する各種課題やテストとともに、出席率や平常の授業態度等を含めて総合的に評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書

中野優 著『21世紀の健康マニュアル』（NHK出版）

コンピュータ演習

1・2年次選択（後期）1単位

講師 高橋 和子

講義目標

情報化社会といわれている現在、情報に対し、正しく理解し基本的な知識や技能を身につけていくことが求められている。そのためのツールとして広く用いられているパソコンについて高校で学んだ基礎の上にさらに活用できるように、実習を中心に学び、実用的なパソコンの使い方を修得し、演習する。

講義内容

- ・情報処理とコンピュータについて概論
- ・表計算ソフトのExcelを使って実習。
（作表、演算、グラフ、データベース機能）
- ・ワープロソフトのWordを使って文書作成について実習。
（漢字変換システム、文書の編集、印刷、保存）
- ・プレゼンテーション用ソフトのPowerPointを使って実習。

評価方法

- ・平常点（出席、授業中に作成した課題）
- ・演習テスト（パソコン実習問題）
- ・レポート（データの処理等）

の総合による。配点は未定。

演習授業は毎回積み重ねであるので、1回休むとその遅れを取り戻すことが難しい。授業への出席は重要視されるし、又逆に出席していればできる。

教科書

未定（開講時指定）

参考書

必要に応じ指示する。

コンピュータ演習

1・2年次選択（後期）1単位

講師 東福都美子

講義目標

現代生活におけるコンピュータの役割を理解し、コンピュータの操作、活用方法について学ぶ。高度情報化社会といわれる現在、必要な情報を上手に収集し整理する力が問われている。そのためにはコンピュータの基本的なしくみを理解し、適切なアプリケーションソフトを選択、操作するといった力が必要となる。インターネットの加速的普及により益々身近になった観があるコンピュータだが、まだまだ一般人が目的に応じて心地よく使いこなすといったレベルまでは至っていないように見受けられる。本講義では、コンピュータを有効に利用する手立てとして、基本ソフト（OS）のしくみを理解し、演習を通してレポート作成等に必要ワープロ・表計算ソフトの習得を目指す。また作成したレポートを発表する際に手助けとなるプレゼンテーションソフトについても学習する。なお本講義演習の中心は表計算ソフト「EXCEL」の操作が中心になる。

講義内容

1. コンピュータの基礎知識
2. インターネット情報検索と収集
3. 日本語入力基礎

4. ワープロ (WORD)
5. 表計算 (EXCEL)
6. プレゼンテーション (PowerPoint)

評価方法

出席・提出物・宿題、・試験による総合評価

教科書

開講時に指示する。

参考書

必要に応じて随時指示する。

英文ワープロ実習

1年次選択 (前期) 1単位

講 師 東福 都美子
坂口 弘子

講義目標

コンピュータを操作する上でもっとも基本的な技術である「KEYBOARDING」の基礎を習得する。次に英文ビジネス文書の作成を通して英文ワードプロセッサの操作を学び、国際社会で十分通用するレベルのところまで学習を高める。近年インターネットの急速な普及により、文書作成の方法、伝達手段などに様々な変化が見られるようになった。電子メール、紙文書の電子化などはその代表とも言える。そういった電子的な変化があるとしても書類作成の基本はやはりワープロソフトを使つての文書作りであることに変わりはない。手本となる書式に従い「読みやすく、わかりやすく、そして見栄えのする文書」を効率的に作成する力を養う。

講義内容

1. コンピュータの基本 (ファイル操作と管理)
2. キータッチ・トレーニング (ブラインドタッチの習得)
3. 英文ワードプロセッサ (WORD 2002)
 - (ア) 英文文書の書式設定
 - (イ) パンクチュエーションルール
 - (ウ) 校正記号
 - (エ) 英文ビジネスレター
 - (オ) 英文レポート
 - (カ) 英文入力のスPEEDアップ

評価方法

課題提出、出席率および実技試験の結果を考慮した総合評価

※授業中の課題提出のほかに、毎回必ずといってよいほど宿題が出る。授業時間と同等程度の時間を宿題のために確保してほしい。

教科書

開講時に指示する。

参考書

教室で指示する。

文献講読 (Anthropology)

2年次選択 (前期) 1単位

Doctor of Philosophy
教 授 木山 英明

講義目標・講義内容

この科目は後期の特別演習と併せて、受講生たちが自分で年間の研究計画を立案して勉強する自主的な講座である。講師は、それについて助言する。したがって、自らテーマをもって、教室の内外で積極的に勉強しようという熱意をもったものだけが受講できる。その枠組みは特別演習についての欄に譲るが、大枠は、人類学である。

文献講読 (Reading in Marketing)

2年次選択 (前期) 1単位

教 授 上原 利實

講義目標

この文献講読では「市場社会と人間」にかかわる欧文、邦文の文献の読解をすすめます。内容を理解するだけでなく、さらにテキストを批評し、書かれた主題を自らの問題として問直すところまで「読む」姿勢が形作れればと思います。

講義内容

本年度はGilbert, Erik & Reynolds, Jonathan, *Trading Tastes : Commodity and Cultural Exchange to 1750*, Pearson Education, 2006. を中心に授業をすすめます。香料、塩、砂糖、絹の交易を文史的に論じたものです。

学生は1パラグラフずつ、訳と内容の説明を担当します。はじめは語学や文学の文献と異なり、基礎知識も少なく、読みにくく、訳文の文体も定まらないかもしれませんが。しかし臆することなく、逆に自分の弱点を発見するつもりで積極的に訳出してもらいたいと思います。「読むこと」の弱点の克服がこの講義の目的です。

評価方法

全講義回数の3分の2以上の出席と講義への参画意欲、そして提出された訳文により評価します。なお学生による講義への批判を訳文の後ろに書いてもらいます。

教科書

使用するテキストは開講時に用意します。また、授業のなかで適宜資料を配付し、参考文献等を紹介します。

文献講読 (Clinical Educational Psychology)

2年次選択 (前期) 1単位

教 授 櫻井 信也

講義目標

臨床教育心理学について学びたい。臨床教育心理学とは、臨床ということばが意味するように、学校教育現場での問題の理解と解決、そして予防を意図して実際に役に立つ教育心理学を旨とするものである。受講生の臨床的視点を育てていきたいと考えている。

講義内容

受講者には、文献のなかからテーマを選択してもらい発表する機会を与えたい。文献は少々難解かもしれないが怖れずにとりくんでもらいたい。きちんと手助けしていくつもりである。取り上げるテーマは、発達課題、パーソナリティとその理解、心理臨床からみた集団、学校カウンセリングの諸問題、非社会的な行動 (不登校、場面緘黙など)、非行などを考えているが、受講生の関心も配慮したい。

評価方法

出席、積極的に発言し、考えを述べる態度。

教科書

氏原 寛 他編『臨床教育心理学』（創元社）
参考書
講義のなかで必要に応じて紹介していきたい。

文献講読（American History）

2年次選択（前期）1単位

博士（史学）
教授 君塚 直隆

講義目標

アメリカに関わる英語文献を講読することによって、この国の政治・経済・社会・文化に関する理解を深めていきます。

講義内容

現代世界におきましては、アメリカは「唯一の超大国」となって、世界中で起こっている事件に深く関与する国となっております。そのような状態を引き起こす要因となりました「冷戦」とは、いったいどのような現象だったのでしょうか？今年度は、有賀貞 *An International History of the Modern World*（研究社, 2003）を講読しながら、この問題を、みなさんとともに考えてみましょう。

評価方法

授業での発表をもとに評価します。

教科書・参考書

上記の本のコピーを配布します。また、この本を読むにあたっての、日本語の参考文献も適宜、指示します。

特別演習（Anthropology）

2年次選択（後期）1単位

Doctor of Philosophy
教授 木山 英明

講義目標・講義内容

人類学に興味をもった人たちが集まって、自主的に勉強を行い、それを発表し合って討論する場である。

「人類学」（Anthropology）は、人間を「科学的」に研究する学問であって、
(1) 自然人類学（Physical Anthropology）、(2) 文化人類学（Cultural Anthropology）、
(3) 考古学（Archaeology）の3つの分科学で構成されている。

この範囲のなかで、どのようなテーマで勉強するかは、開講後、受講者の関心等を考慮して決める。

特別演習（Seminar in Marketing）

2年次選択（後期）1単位

教授 上原 利實

講義目標

21世紀は生涯学習の時代です。しかしそれはただ教育をずっと受け続けるということではありません。情報受信者であると同時に、学んだ知識を土台に、様々な体験や経験をあわせ、自らの大脳の情報変換・創造プロセスを通じて、誰もが情報発信者、すなわち知的生産者になるということでしょう。その意味では生涯研究の時代といえるか

もしれません。一昔前の、中高年齢者によるワープロを使った私家本発行や、さらには引き続いている、インターネット上での夥しい個人のホームページやブログの開設はそれを端的に表しています。こうした自己表現の喜びは豊かな社会の一つの可能性なのです。

もちろんそのためには情報発信のノウハウを各人が身につけている必要があります。この特別演習では「市場社会と人間」について考えることを主テーマにしなが、学生が生涯学習者・知的生産者（研究者）として情報を発信する能力を養うことをめざして授業を行います。

講義内容

現代社会は市場社会であり、その問題は、「市場社会と人間」の問題に置き換えることができます。この特別演習では、参加者が関心を持つ社会問題を「市場社会と人間」の問題として解き明かしてもらいます。

具体的には、毎回短い時間を割り当て、参加者が自ら問題設定をし、その解に至る困難なプロセスをたどり、そしてその結果を発表していきます。またお互いにコメントしあい、自他の考えをコミュニケーションすることの難しさを体験していきます。

もちろん始めはなかなか時間を十分に使うことができないと思うので、教員による、各自のテーマをサポートする様々な資料の提示や考え方の道筋の説明が中心になるでしょう。また問題設定に伴うKJ法のような発想法の技術や、その結果を文章でまとめるための技術、あるいはプレゼンテーションするための技術など、知的生産の技術についても紹介しなければならないと思います。

こうして知的生産のための様々なノウハウを習得しながら、市場社会に関する各自の問題をお互いに検討しあい、それぞれのテーマを切り口に市場社会への理解を深めてもらいます。

評価方法

発表など参画意欲に基づく平常点と、最終的な論文やプレゼンテーションにより評価します。なお受講生による授業の評価文を最終回に提出してもらいます。

教科書・参考書

特定の教科書は使用しません。有用な参考書、資料は随時紹介します

特別演習（Modern Chinese History）

2年次選択（後期）1単位

教授 新谷 雅樹

講義目標

中国現代史上の重要な資料・文献を原典で読みます。たとえば、
①『鄧小平文選』「在武昌、深圳、珠海、上海等の談話要点」（1992）
②『人民日報』社説「必須旗幟鮮明地反对動乱」（1989）
③『解放軍報』「關於建国以来党的若干歷史問題的決議」（1981）
④『人民日報』「中国共产党第十一回中央委员会第三次全体会議公報」（1978）
⑤『人民日報』「中華人民共和国政府日本政府共同声明」（1972）
⑥『人民日報』「中国共产党中央委员会關於無産階級文化大革命的決定」（1966）
⑦『建国以来重要文献選編』「關於人民公社若干問題的決議」（1958）
⑧『建国以来重要文献選編』「中国人民政治協商會議共同声明」（1949）
といった原典を読み解く演習をします。いずれも難しいテキストですが、辞書を片手に、歯を食いしばって読むのです。

講義内容

教材はいずれも現代中国史を考えるうえで欠かせない資料・文献です。中国語Ⅲを終

わった語学力では、いずれも相当難しい演習になるでしょうが、手加減はしません。毎回、演習の前に、当該個所のピンインを調べ、当該個所を和訳したものを提出してもらいます。おそらく、この予習のために、少なくとも一日は棒に振るでしょう。このような試練を受けないと、中国語の本当の実力は身につかないのです。

そうそう、言葉は音声ですから、各自、発音の練習を徹底的にしておいてください。受講者に望むこと

まず現代中国に強い関心を抱いていること。次に難解なテキストに立ち向かって、なにがなんでも理解しようというガッツがあること。

評価方法

予習は絶対してきてください。全員、あらかじめピンインを調べて写したものと、翻訳したものを提出してもらいます。これを提出しないと、演習に参加できません。念のため。

評価：①出欠、②課題提出、③期末試験の三つによって評価します。①②を最重要視します。③は論述と中文和訳の試験を行います。

教科書等

テキスト：『人民日報』などのコピーを配布します。

辞書：『中日辞典』（小学館 6,800円）

これは基本的な工具書です。授業の時に必ず持参してください。電子辞書でも可（持参しない者は欠席扱い）。

参考書1：天児慧著『中華人民共和国史』（岩波新書 660円）

これは本演習がはじまる前に各自、読んでおいてください。必読です。第一回目の講義のとき、口頭試問をしますので、念入りに読んで記憶に留めて置いてください。

参考書2：『最新中国情報事典』（小学館）

これは図書館にありますので、常時参照してください。最新というには、情報が古くなっていますが、七十年代後半から八十年代後半までの中国の諸事情を知るのに、まだ役に立ちます。

参考書3：『現代中国事典』（岩波書店）

これも図書館にあります。現代中国を勉強するうえで、どういうトピックが重要であるか知るのに便利ですので、まめに引いてみてください。

その他、必要な参考書は授業のとき申し上げます。そのつど読んでレポートを提出してもらいます。

特別演習 (Clinical Psychology of Adolescence)

2年選択（後期）1単位

教授 櫻井 信也

講義目標

思春期・青年期の心理的特性と発達課題、そして、その病理について考えていきたい。具体的な事例も取り上げながら理解を深めていく。受講生の特定のテーマについての発表も期待し演習に深く関与することを望むが自由な雰囲気です。じっくりと考えられる時間にしたい。病理については神経症から精神病のレベルまでを対象とする。

講義内容

1. 思春期・青年期の臨床的発達論
2. 社会的ひきこもり
3. 境界例
4. 摂食障害
5. 強迫性障害（主として不潔恐怖）

6. 対人恐怖

評価方法

出席、積極的に発言し、考えを述べる態度、そしてレポート。

教科書

青木省三 著『思春期の心の臨床』（金剛出版）

参考書

講義のなかで必要に応じて紹介していきたい。

特別演習 (French Civilization) 教授 山崎 ゆき子

2年次選択（後期）1単位

講義目標

フランスには文化遺産が豊富に存在します。これらは、当時の技術の粋が集められて建設されたものであり、芸術的に極めて貴重なものばかりです。しかしそれだけにとどまらず、それぞれの建造物の背後には、そこで繰り広げられた様々な人々の生活やドラマが存在しているのです。ですから、どのような時代に、どのような理由で作られたか、さらにどのような運命をたどってきたか、などを知ることは、この国を一層深く知ることにつながるでしょう。そこで、本講座では、いろいろな地方の文化遺産への理解を通して、フランスの理解を深めていこうと思います。

講義内容

文献（フランス語）、ビデオ、写真などを利用して、フランス各地の歴史的建造物について、歴史的観点や芸術的観点などから多角的に理解を深めます。同時に、それぞれの文化遺産にまつわるエピソードなどを通して、当時の社会や暮らしを検討します。

【扱う地域と主な文化遺産】

パリ（シテ島及びセヌス河岸周辺）、ランス（大聖堂）、ブルゴーニュ地方（ロマネスク様式の教会と彫刻）、ヴェルサイユ（宮殿）、モン＝サン＝ミッシェル（修道院）など

評価方法

授業での発表及び期末のレポートにより評価します。

教科書

プリントを配布します。

特別演習 (Latin American Society and Culture)

2年次選択（後期）1単位

教授 Bernardo Astigueta

講義目標

主に文化的多様性に焦点をあてながら、一般的なラテンアメリカ事情を扱います。ラテンアメリカ人の感受性や独特の考え方の理解を目指してラテンアメリカ世界の特徴について説明します。授業ではラテンアメリカの教官と共にみんなで意見交換をして考えを深めましょう。この授業では日本語だけでなく英語やスペイン語も使用できるので、どの学生でも履修できます。

講義内容

- 1) ラテンアメリカ世界の紹介
- 2) ラテンアメリカの地理、気候、風土、ラテンアメリカの自然遺産

- 3) ラテンアメリカの歴史全般、文化的アイデンティティ
- 4) ラテンアメリカの人種、混血現象、人種と社会構造
- 5) ラテンアメリカの美術と文学
- 6) ラテンアメリカの音楽と娯楽
- 7) 在米ラテン人の世界。労働移民の現状

評価方法

個人とグループ発表、授業の参加度、最終レポート。

教科書・参考文献

授業で資料を配布し、参考文献を紹介する。

特別演習 (English History)

2 年次選択 (後期) 1 単位

博士 (史学)
教授 君塚 直隆

講義目標

イギリスに関する文献の講読・発表を通じて、この国の政治・経済・社会・文化の理解を深めていきます。また、将来的にも役に立つような、文章のまとめ方、発表の仕方、レジュメの作り方、ものの調べ方も身につけていけるようにします。

講義内容

今年度は、Brian Hoey, *At Home With the Queen* (London, 2002) をテキストにイギリス王室を支える人々について見ていきます。

評価方法

授業での発表をもとに評価いたします。

教科書・参考書

上記の本をコピーして配布します。

※基礎セミナー

1・2 年次選択 (前期・後期) 2 単位

講義目標 (基礎セミナーのねらい)

「学生に求められる基礎的な力である日本語の読解力、思考力、批判力、そして表現力を確かなものにするのがこのセミナーのねらいです。様々な大学で試みられているものですが、本学では少人数制を生かし、1クラス10名以下に抑え、学生一人一人に応じてその力が伸ばせればと考えます。ですから、出席し、積極的に授業に参画し、課題をこなすことで評価します。それにより無理なく自然に学生としての感受性が培われるはず。このセミナーは外語短大で学ぶことの土台になるでしょう。これからの生涯学習の時代の出発点にもなるでしょう。多くの学生が積極的に受講し、自信を持って知識の森を、そして情報あふれる社会を歩める人になることを期待しています。

Doctor of Philosophy
教授 木山 英明

講義内容 《前期開講》

「読み書きそろばん」がすべての基本です。そこでまず、日本語の書き方を練習しま

す。人は言葉によって考え、考えを言葉によって表現します。したがって、いい文章はいい考えの中からしか生まれません。日本語だ英語だという前に、いい文章は何語に翻訳してもいい文章ですし、その逆は逆です。論文だレポートだという前に、数十行の短い日本語を書くことを練習します。自分が今までいかに無駄な言葉を重ねてきたか、いかに思考を無駄に使っていたかを実感するようになるでしょう。

そして、最後の四回ばかりは、「相関」という「そろばん」=算数について勉強します。“これとこれは関係がある”と言いますが、その関係の強さを表す算数です。この考え方を知ると知らないとは、ものごとの判断に天と地ほどの違いが生じます。

評価方法

毎回の受講成績によって評価します。

教科書・参考書

なし。(必要なプリント配布。)

博士 (史学)
教授 君塚 直隆

講義内容 《前期開講》

このセミナーでは「プレゼンテーション」の仕方について徹底的に指導します。自分自身の意見をいかに他人に伝えるかという能力は、学問を進めるうえではもちろんのこと、入社試験の面接や編入試験の面接、さらには社会に出てからの様々な局面において、必ず問われることになる能力です。このセミナーでは、発表の仕方・レジュメの作りなどを指導するとともに、質疑応答のあり方についても検討していきます。

評価方法

各人が興味をもつ時事問題について報告してもらいます。その内容はもちろんですが他の学生が報告しているときにも積極的に質問するよう心がけてください。セミナーへの無断欠席・遅刻・早退や消極的な姿勢が見られた場合には即座に履修の停止を命じますので注意してください。これらの総合的な評価で判定を下します。

教科書

特に使用いたしません。

教授 上原 利實

講義内容 《後期開講》

このセミナーでは二つの作業を半期の間に並行して行い、セミナー設置の課題を果たそうと考えています。一つは新聞の時評などの署名記事を毎回採り上げ、ディスカッションをし、それに基づいて自分の見解を書き表す作業です。もう一つは開講時に提示した数冊の新書程度の本のうち一冊を選び、セミナー終了時まで、その概略をまとめ、書評を果たす作業です。できればそうした作業を単独の作業というよりセミナーの仲間との共同作業として果たすことができればと思います。

教員としてはそのための手助けとして、質問を受け、添削をしたり、また読み方、考え方、発表の仕方、文章のまとめ方など様々なノウハウを提供したり、あるいはコンピューター・リテラシーやメディア・リテラシーといわれるものを紹介・説明します。教室だけでなく、研究室やe-mail (アドレス: zxe01504@nifty.ne.jp)なども利用するつもりです。

情報の消費者に満足するのではなく、情報を批評し、情報のプロシューマーになる

うとする学生の受講を期待します。

評価方法

全講義回数数の3分の2以上の出席と講義への参画意欲、そして提出された書評文により評価します。なお学生による講義への批評を書評文の後ろに書いてもらいます。

教科書・参考書

特定した教科書は使用しません。講義のなかで適宜資料を配付し、参考文献等を紹介します。

教授 櫻井 信也

講義内容 《後期開講》

受講生が主体的に選んだ心にのこる小説の1節や昔話などを題材にし、イメージをすばらしく喚起する、その表現を学び、語られている内容についても話し合っていきたい。まず、担当の受講生に口火を切ってもらおう。自分を表現し、自分の考えをきちんと述べること、同時に他者とのやりとりを通して、自分の考えや感じ取り方を深め変化させていく体験をさせたい、と考えている。

あるいは、好きな人物をテーマにして語ってくれてもよい。私は漫画家の、つげ義春を第1回目の講義でとりあげるつもりでいる。なお、受講生は10名程度に限定したい。

評価方法

積極的に思うところを発言する態度。

教科書

題材にする作品は受講生各自が選択する。

参考書

河合隼雄 著『おはなしの知恵』（朝日新聞社）

河合隼雄 著『昔話の深層』（福音館書店）